

看護学科

科目名: 公衆衛生学			担当教員 氏名: 寺西 秀豊			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門基礎科目	講義	必修	社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
地域保健・医療問題解決のために必要な公衆衛生学の基礎知識に重点を置き、疾病予防、疫学、行政施策、および国際的取り組みについて学ぶ。地球規模の環境問題と公衆衛生の今後の課題を考える。					公衆衛生、疫学、環境問題、地域保健、予防	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)			2. 5. 6. 8.
A 知識・理解力	看護に活用される公衆衛生学の基礎知識を理解する					
B 専門的技術	専門的看護技術を習得するために、公衆衛生の考え方と行政施策を理解する					
C 論理的思考力	公衆衛生と疫学を理解し、看護の理論や技術を論理的に説明できる能力を養う					
F チームワーク・リーダーシップ	地域保健・地域医療の一員である看護師の役割を理解する					
G 倫理観	地域で生活する人々の健康や生命の尊厳を理解し、医療に携わるものとしての倫理観を身につける					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %	レポート: 20 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: 公衆衛生の歴史をたどり、わが国の健康指標の改善や今後の課題を自ら考え、課題解決に必要な考え方、知識、技術、ネットワークのあり方を考察する。						
アクティブラーニング要素: (課題解決型学習) ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 4回目の授業の時に小テストを課し、6回目の授業でレポートを実施する。「補講・試験」日に成績評価試験を実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①公衆衛生の歴史				テキスト「公衆衛生の歴史」を読む	270分	
②公衆衛生のシステム				テキスト「現在の公衆衛生システムと政策」を読む	270分	
③公衆衛生の政策				テキスト「諸外国の公衆衛生政策」を読む	120分	
④公衆衛生の公的責任				テキスト「公衆衛生の理念・概念」を読む	270分	
⑤公衆衛生の方法				テキスト「公衆衛生のものさし」を読む	120分	
⑥疫学調査の実際				テキスト「公衆衛生活動における疫学」を読み、事例を学ぶ	270分	
⑦公衆衛生のアプローチ				テキスト「公衆衛生活動のプロセス」を読む	210分	
⑧まとめ				公衆衛生学授業全体の復習をする	210分	
使用テキスト: 使用テキスト:ISBN978-4-8404-4913-7 平野かよ子、他(編):ナーシング・グラフィカ⑧ 「公衆衛生」メディカ出版				その他参考文献など: 近藤克則 著「健康格差社会への処方箋」医学書院		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 公衆衛生は国家試験にも多く出題される重要な分野です。しっかり取り組んでください。テキスト以外にプリントを使用することもあります。各自でなくさないように保管して下さい						